第２０回安来市美術展　入賞作品選評

デザイン部門

総評

デザイン部門は近年出品数の変動が見られるが、今回は安定してきたように思う。応募作品は、手描き、手作り、ＣＧと多彩になってきたが、審査するにあたっては、デザイン本来の目的であるメッセージが明確に伝わってくるかどうかをポイントに見させていただいた。そのためには、様々な技法を有効に駆使し、見る者に訴えかける力を感じ取れるかが重要な要素になってくる。今後もデザインセンスあふれる力作を期待したい。（近藤隆審査員）

■市長賞　「安来モンスター」　中野　滋

白黒の表現だが作品に圧がある。安来ゆかりのモチーフを各所に取り入れ、モンスターとして表現したユニークなイラスト。点と線での緻密な描き込みで巧みに陰影を表現しており、シルバーアクセサリーのような雰囲気も感じられる。（Akuto 審査員）

■奨励賞　「わたしのアトリエ」　吉岡　さつき

一見乱暴で雑なイメージがあるが、作者のセンスある自由な発想が目を引く。タオルを中央に青、緑、赤の布が周辺に配置されているが、全体の形としてのまとまりを感じる。エネルギーあふれる楽しい作品だ。（近藤隆審査員）

■奨励賞　「あしたへ。」　二岡　みえこ

身近にある紙類を効果的に使って作り上げた好感の持てる作品。蝶が上へとＳ字形に飛んでいく構図で、配置も単調にならずリズム感が心地よい。背景の色面も蝶の流れに乗ってまとまりのあるデザイン作品になった。（近藤隆審査員）

■安来市文化協会賞　「冬のマーチ」　岩崎　春日

デジタルで描かれた絵本のようなイラスト作品。ぱっと見は華やかだが、細かい部分や素材の扱い方にまだ不慣れな感じがある。デジタルは拡大して細部まできっちり仕上げる作業が必要となる。まだ伸びると思うので、今後の課題としてほしい。（Akuto 審査員）

洋画部門

総評

昨年に続いて高校生の出品作品が多く、しかも、高校生の作品から最高賞の市長賞を始め、入賞作品が多数選ばれた。一般の方の作品も個性的で、独創性のある作品が数多くあって良かった。この展覧会が若い芽を育成する目的や地域に親しまれる作品展に発展することを今後も期待したい。（仲西嗣雄審査員）

■市長賞　「おい、授業中だぞ。」　原本　心寧

授業中に作者が空想する世界がユーモラスに構成されている。中心の人物を大胆に入れたのが良かった。一つずつの描写力が優れており、迫力のある作品になった。（仲西嗣雄審査員）

■奨励賞　「低迷ノスタルジック」　細木　冴良

非現実的な色彩と構図で、見る人を画面奥へ引きずり込む。不思議な空間を作り出している。特に、上にわずかに見える雲がより効果を発揮している。（近藤隆審査員）

■奨励賞　「牡丹華」　長谷川　智

牡丹の美しさが見事に表現され、また水彩画の魅力が十分に発揮されている。うっとりする色彩が、心を休めてくれる素晴らしい作品である。（花谷久代審査員）

■奨励賞　「景色」　松岡　蒼宙

花瓶の光沢やガラスの透明感など、素材が丁寧に描き分けられている事と、他のどの出品作よりも手がしっかり描かれており、リアルな空気感が感じられ、強い存在感を放ってた。（近藤顕審査員）

■安来市文化協会賞　「のどぐろさん　こんにちわ」　古志野　亮太

深海の魚が鮮やかに描かれている。独特のタッチ、色使いがとても印象に残る秀作。（花谷久代審査員）

■広瀬町文化協会賞　「凝視」　鷲野　紘之
際立った表情が生々しく力強い作品。こちらを見つめる瞳と、背景に潜む何かによって鑑賞者を引き込んでくる。作家性をしっかり持っている印象を受けた。（近藤顕審査員）

■安来市加納美術館賞　「大山と私」　坂本　優果
非常に若者らしい、さわやかな作品である。人物の手のポーズや顔の表情が優れている。バックの大山の処理に工夫が欲しかった。（仲西嗣雄審査員）

■中央画材賞　「共に生きる」　古曳　小夜子
上から川の中の魚たちを覗き込んだような構図。大きい魚や小さい魚が共生していて、作者の意図が素直に伝わってくる。柔らかい色彩や絵具のタッチが温かい気持ちにさせてくれる。（近藤隆審査員）

日本画・水墨画部門

総評
水墨、日本画共にバランスの取れた出品数でした。作品の中に表現されている空気感、特に水墨画では主に墨の濃淡のみで表現されるので、その表現力が審査の対象になっています。日本画作品については、絵具の使い方の技術力、背景を表現するマチエールの描き方を審査の対象にしています。
どの作品も、色のバランスが日本画らしい色の重ね方で、水墨と同じく季節や空気感を表現できています。作者の丁寧な姿勢を感じ取ることができました。（東野布由美審査員）

■市長賞　「2026 夏　涼を求めて」　内田　洋彩
水墨画を描く時、水の表現はとても苦労するところですが、流れる様を良と捉えて心に残る作品です。岩も力強く表現されていて素晴らしい作品です。（中川端月審査員）

■奨励賞　「宿場町」　井上　正行
山間部の情景を、近くの山と樹木そして雲の捉え方などゆっくりと心を落ち着けて拝見できる作品に仕上がっています。（中川端月審査員）

■奨励賞　「翠雨に咲く」　広田　あつ子
題名のようにさわやかな緑色の葉と背景の雨の空気感が美しいバランスで描かれています。雨に打たれる花びらは、柔らかな花の質感を感じ取れます。緑色と白だけの静謐な空気感が上手く描かれています。（東野布由美審査員）

■安来市文化協会賞　「風と光と」　岡本　幸子
難しいテーマに挑戦された作品。人物はこだわりなく大らかに描かれているが、笹は緑色の色彩を重ね、絵具を動かしたことにより、笹の匂いや通り抜ける風、奥行きも表現されている。素朴だが、深々とした色彩が印象に残る作品。（福間小夜子審査員）

■サニー大山賞　「秋の味覚」　奈良井　雅楓
この季節にぴったりの作品です。力まずに縦長をよく捉えて描かれています。特筆すべきは葉の表現に工夫がなされていて良い作品に仕上がっています。（中川端月審査員）

写真部門

総評及び選評：仲佐　勝巳審査員

総評
今年度は素晴らしい作品が多く選ぶのに苦労しましたが、やはり、何を撮りたいか、中心になる人や風景など小さな画面の中に表現する技術、色、濃度等が優れている作品を選びました。作品の中には、カットや明るさをもう少し工夫すればいいなと思う作品もありました。自分以外の作品を見て勉強する事も大事だと思います。安来市には美しい場所や祭りなど、対象となるものがたくさんありますので、どんどんシャッターを切って欲しいと思います。引き続き、安来市美術展への出品をお願いします。

■市長賞　「米子港流氷」　真砂　昇平
　米子港流氷は、手前の氷が水面を漂う景色が上手に撮られています。冬の写真表現として大変素晴らしく、感動させられた作品でした。また、次の作品も頑張ってください。

■奨励賞　「視線の先は」　石原　康博
　躍動感が感じられ、向かって来そうな猫がいきいきとしている姿を撮られた素晴らしい作品です。これからも色々な物を観察して様々な瞬間を見せてください。

■奨励賞　「待つ人」　和田　稔
　画面の中に「人」、「風景」をうまくまとめています。左端の人が祈るようにも見え、全体の雰囲気を厳かに感じさせてくれる写真だと思います。これからの作品作りも期待しています。

■安来市文化協会賞　「帰り道」　長谷川　公子
　踏切での子どもたちの様子と、列車の速さが子どもたちを一瞬動けなくする瞬間の顔が写真から想像できる、そんな感動を与えてくれる作品です。

■広瀬町文化協会賞　「朝霧に包まれて」　稲田　崇
　朝霧に包まれて、なかなか見たことのない視点で撮られています。霧の深さ、ライトの光り具合など面白い写真に仕上げられています。普段からカメラを持ち、心に思った瞬間を写真に残す姿勢を続けて欲しいと思います。

■安来市加納美術館賞　「花影、夢と現のあわい」　米田　直之
　枝垂れ桜の映り込みが素晴らしく、題にあるとおり夢のようにも思えるその表現が、見る人の心を引く作品だと思います。

書道部門

選評：松本　千秋審査員、野坂　泰堂審査員

総評
　今回、書道部門は初開催でしたが、25 点の作品を出品していただきました。書体も多様で、展覧会としても楽しめる力作でした。日頃の学びが作品に表現されていました。さらに、精進を積まれ、来年度も出品していただきますようお願いいたします。

■市長賞　「百花繚乱」　飯塚　修子
　バランスが良い。全体が素晴らしい作品。

■奨励賞　「鳥歌花舞」　野坂　真由美
　バランス良く、丁寧に書かれている。

■奨励賞　「枡色紙」　又葉　延子
　流れが良く書かれている。

■安来市文化協会賞　「無」　吉儀　あつ子
　無心の書か。すっきりした書。

■和田翠雲堂賞　「野含時雨潤…」　大江　範江
　苦労の跡が見られる。

■いずも和紙賞　「行百里者半九十…」　平井　眞由美
　自在に書かれている。

■中尾尚古堂賞　「良寛のうた」　野尻　有眞
　心赴くままの書。